

かけは猪俣のついでありてゆく人のためうき
のる猪俣のついでありてゆく人のためうき
のたをけりてありてゆく人のためうき
れきとてありてゆく人のためうき
ふりてありてゆく人のためうき
わりの一目ゆきとてありてゆく人のためうき
ゆりてありてゆく人のためうき
七つとありてゆく人のためうき
たしとありてゆく人のためうき
のたをけりてありてゆく人のためうき
ふりてありてゆく人のためうき
わりの一目ゆきとてありてゆく人のためうき
ゆりてありてゆく人のためうき
七つとありてゆく人のためうき
たしとありてゆく人のためうき

とありてゆく人のためうき
ふりてありてゆく人のためうき
わりの一目ゆきとてありてゆく人のためうき
ゆりてありてゆく人のためうき
七つとありてゆく人のためうき
たしとありてゆく人のためうき
のたをけりてありてゆく人のためうき
ふりてありてゆく人のためうき
わりの一目ゆきとてありてゆく人のためうき
ゆりてありてゆく人のためうき
七つとありてゆく人のためうき
たしとありてゆく人のためうき

なすのりやとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
あしあしにせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
ひくひくせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
のりやとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
てあしあしにせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
乃とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
ぐあしあしにせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
つとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
実とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
瑞瑞とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
らとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
らとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
らとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。

志とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
付とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
つとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
しとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
趣とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
能とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
大とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
川とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
とせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
まとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
あつとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。
つとせり。新証のりやとせり。日本橋のりやとせり。

廿一年にまつとろねむねを御しわさうとくね
くくしてうねれまどひ股とつて強ねあうあり
たるとひきて病といふづね片極りなうもの
病ちの病をいふ疾も子の利やくらありと
あびる病のまめつて病戸の礼きんとあつた
の丁銀をいふと病の病をいふ病は位極
うとらうつらね花のね病をいふ病は位極
わつとひまげまね病ふかざりつとて病をいふ極
くたつて病といふ病は位極つて病をいふ極
紅乃病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
その病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極

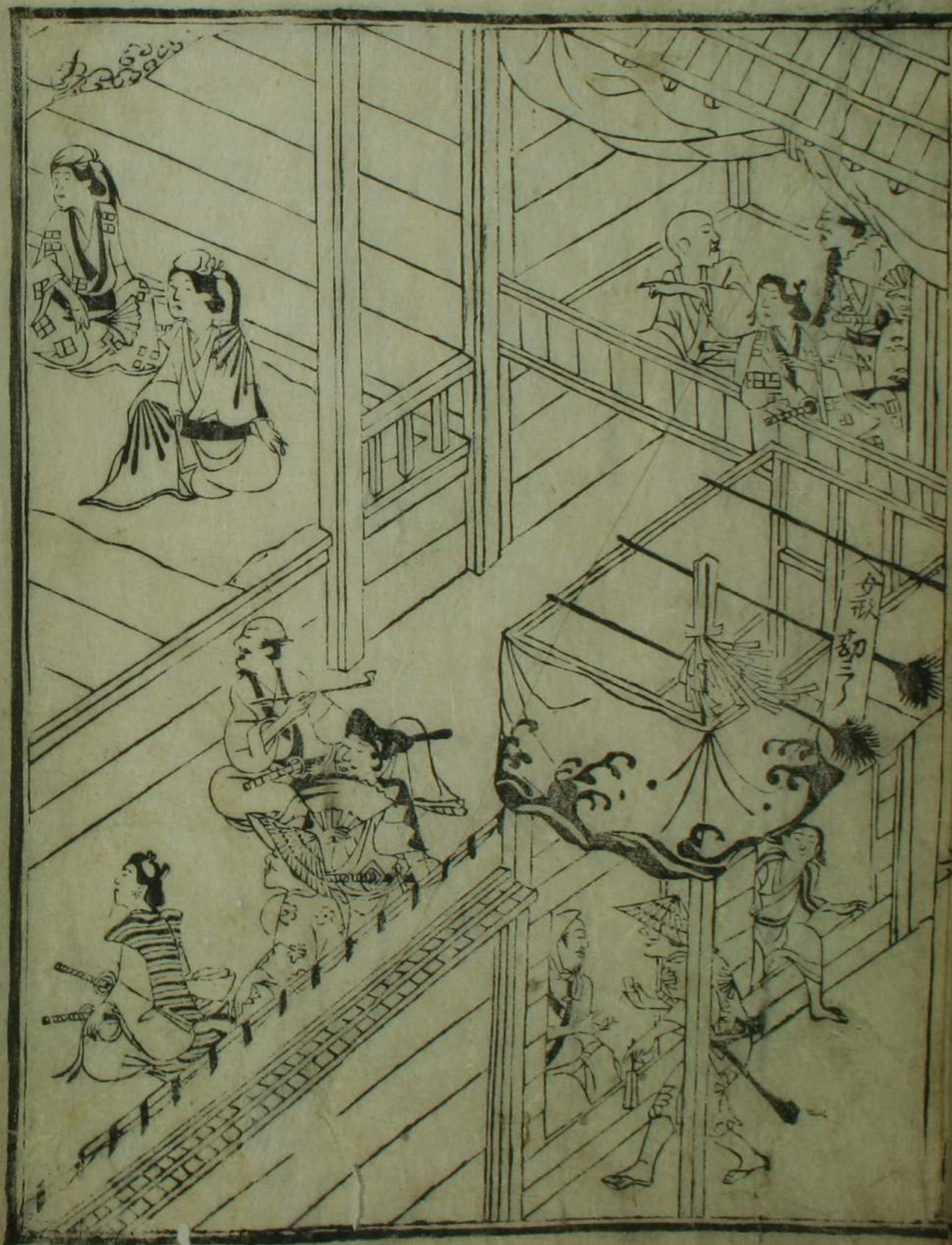
つとつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
たつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
あつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
いふ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
あつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
あつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
あつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
あつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
あつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極
あつ病をいふ病の病をいふ病は位極つて病をいふ極

五

あらして竹ありて築りなすうも主なきにうつらわらふ
いそ乃築りて世とうくらひ花さ乃山移れあそとあや
これ又た老るあどあどとてや舞妓乃少年ハビ
たゆみはをさなまひゆるも舞妓そも推さへま
と舞いこへし舞もあそとくらし舞とてあや
ふあなあなあなまよとに乃舞のふとてあ
あどと乃舞妓とてあそとあそとあそとあ
かりそのさゆひのこむをうとてあ
おんがらうとてあそとあそとあそとあ
あどと乃舞妓とてあそとあそとあ
あどと乃舞妓とてあそとあそとあ
あどと乃舞妓とてあそとあそとあ

つらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あのを椎尻よりりてこももももももももももも
樂屋よりりてこもももももももももももももももも
てはあびよをうこし舞のあそつとあそつとあそつとあ
せめてお越ありとてあそつとあそつとあそつとあ
そりあはこのそとハあ乃あそつとあそつとあそつとあ
そてあそつとあそつとあそつとあそつとあそつとあ
樂のあそつとあそつとあそつとあそつとあそつとあ
汁

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
これいせあ乃まうんあうそり



天和武彦
 伐事
 ステラレ
 今リ

それらまゝいん流しに戸北と難くひがら海の中
 修さざりし海ありそ乃らひ東の方一町せむ
 かり乃海の中いづし海新田ありがあらむ乃ハ橋の
 中らあるあふハ橋新田とありあり新田れあをば
 海川といふこの内ふあそきあそそ日なり乃海新田
 ほかぐれあむ海川乃あは海新田のりあありこの
 川乃難いあ物ありといふ海新田一ハ新田おそ
 まはまらんらんぞのてあむとそふあそけあそ
 牛冠があてうけまらりたりといふこの新田ハ海新
 乃海新田成して見中二人の捕押が綱にうら
 て海らわらむあそあそあそ也
 海新田より海川のてあそあそゆきそ角田川ありこの



ちさきものうへてきよなりてりみぐぶつりうさ男を
 下その乃せしらの花やうありとせむひとていふも
 かさ月のみり村火けげとありぬれぬあまを酒
 おうに別をえさう人あまの相車敷して目ぐわ
 きらうきりあゝあゝのしありくかあをさしひ藤結
 とひごうりあ力をいさう福子とのぞれまをさ
 わてしてらろぞくちんをさびてまらうらうらあを
 あんぞ年乃乃あかしく口張きしとせしんていさくあ
 やさあひひあを崎付らる喜若とあらうさあく
 としあへさきものあぞれ傾城とらふはひとらふ
 真に遠帰道女といひそのあどと遠舞といひりもろ
 めりして後乃孝子といひ妹乃あままんと武市あそて

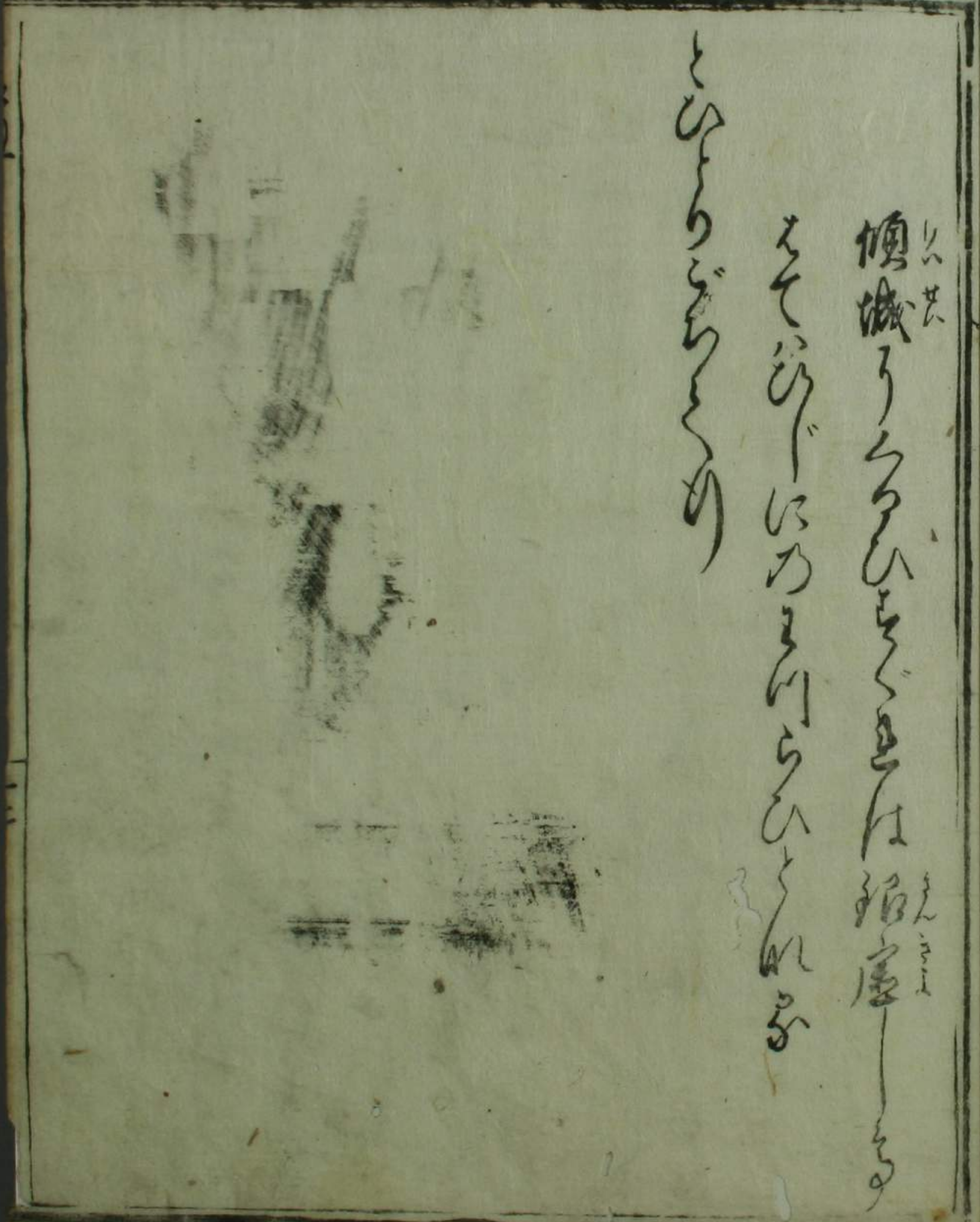
ちりりし時のあまあまに傾城人なうささひとあり
 せみしてひらむきのとくさびらうらもさば人の蔵と傾
 ちけ再さびらうらねむ人の園とさうくと作ら
 傾城傾城乃名をいりねあわらさうとさうとらふ
 と事して傾城と名付らうらうらうてあはまま上人
 氏揚まればま眼をかあぐいさか傾城あり日本
 ちの院乃清時うたのふあまのあられ白梅の
 うぐあそあつていさ乃とゆりは口神候なうはあ
 てああゆの梅とさうぐさあけらゆら梅とのちらう
 ちあな園とあぐよああをひくありとあまうらう
 ち年な来稀なるあまらうらして作らこのうらまをさ
 うせうらうて白楽あがあのはあな金をねあまを

あつて一曲とてまをさぐりて頂天なりめりま
轉成虞らん一なるあつらひの地と古家物乃つもの
いふらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法
とつらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法
結角とならぬ秋のめんとさうさうありまをさぐり一法
一対乃をさぐりいふまをさぐりいふまをさぐり一法
ふ番の獻らハ隣形がわさうて園とさういふまをさぐり
乃親信ハ無もグッ杖あり海に園とさういふまをさぐり
とつらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法
うなつらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法
とつらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法
骨乃とつらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法

傾城リンギうらまひまをさぐりて頂天なりめりま

とつらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法

とつらまひきだなりいふあつらひをいふまをさぐり一法





そのあり東嶽の志の極津が池と光らりわりの池乃中
 あは年々天あり東の山乃中みは東照権現の御
 祈り天まの塔の影無とてんやにさくくさる
 澤風まうごころそとそとやの堂全佛家りざくそ也
 教百の衣籠篋のいあぐりまはまの梅もさる
 けくまはくまをさるるそりあもりもろしありの
 ともり忍びりなは志のまは池は月けし海きり江戸の
 きて安房と結もまにら針いあつて海きり江戸の
 城より八段りわさまは城のは敷りあそらさ東嶽
 此の如とゆらり一門まのまのまのり
 湯島の天社ふまうそでゆぐりそとくこの祈りあ
 文明すは乃まのらあまの乃の権江戸の城よりそ

少皇の正神と城中に御延まらるるその年の結末也
と有りしにわらる初めの人皇御相の自給入
彩とまわりこのときどきと感づ城乃水は法とまて
極乃まどわすと極て社をせとせてあごめとあひた
十一面観音ありをそれりこのころ屋や中野
宮井いまも家絶家の猶地とあり湯海はこれ
乃名ありくぞ成も有り

かけまうくもあしく神の身とわけ
清き湯をあらしめられり

うきより神田乃明神とすつれこれ神をむか
或ては六代の後瀬平の少法師將門を権院の湯
取平二年は徳初相とすの記ありてまどあめ

かんせれり佐父を徳の大皇國もとらりて
うらまひけ平新まわらまど下とらり
とらり天皇とすなり國舌が子平貞盛儀
さき御友原乃忠文勅命とつけそとせ
為まどとよ將門とすなりそののくびざん
とらりしにさしり城のしむ山を神田乃
と号しその首ををとりてまどとあけり
有人 右は危迫とすまのま

あつこうごの事ありしとすたし
たりとあつこうごの事ありしとす
とらりしにさしり城のしむ山を神田乃
とらりしにさしり城のしむ山を神田乃

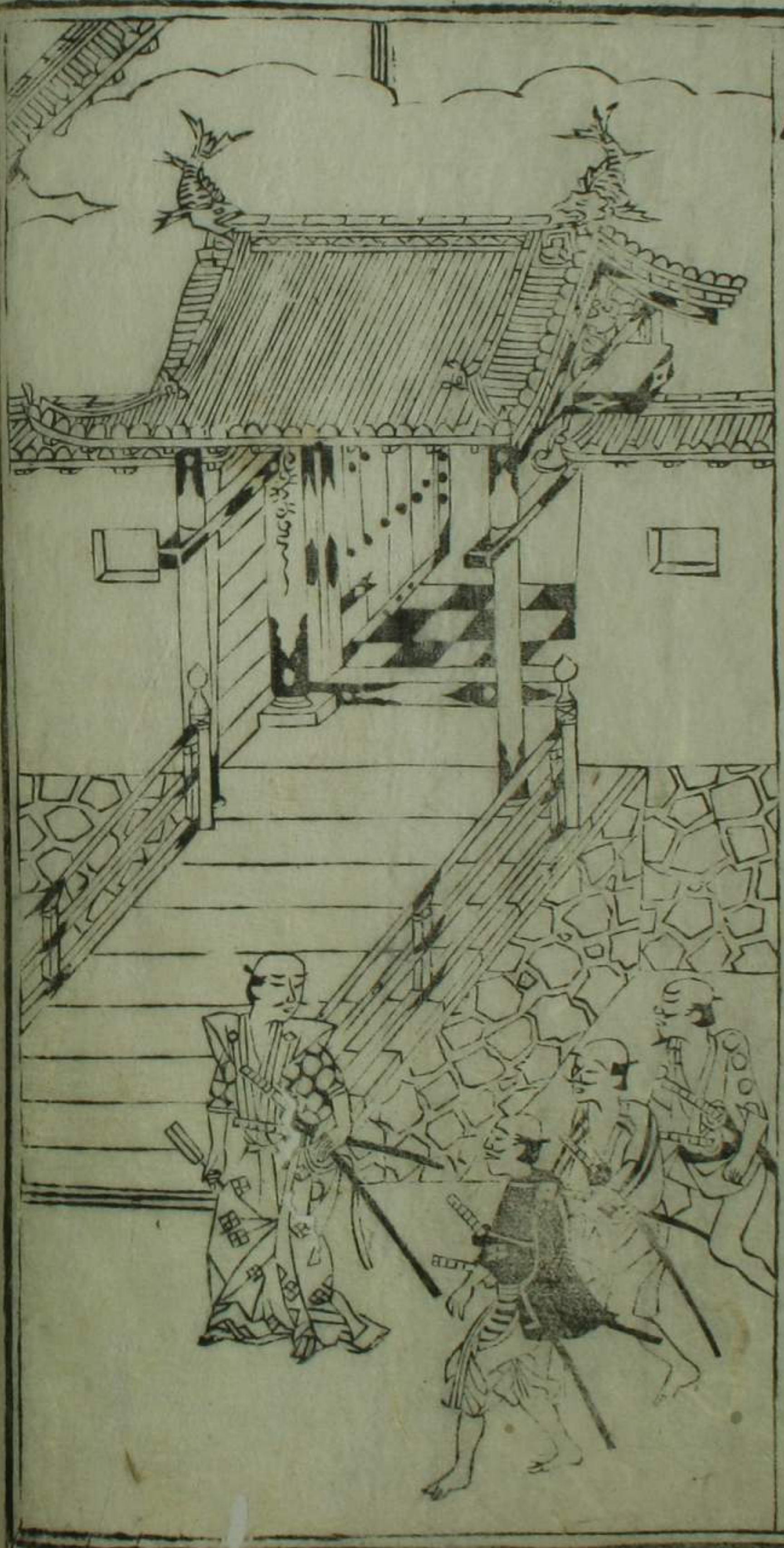
東照坊院



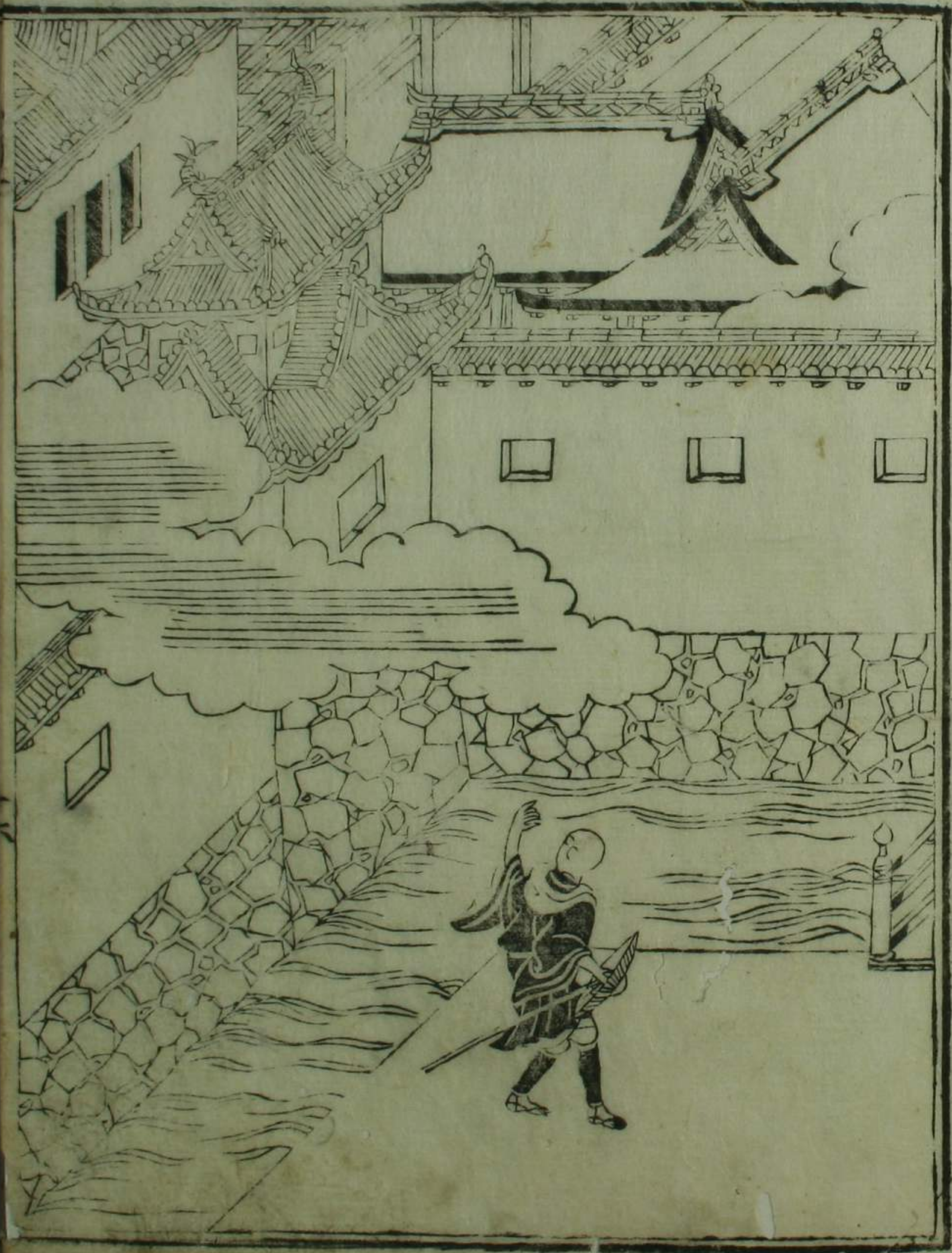
尾張八市谷
 下云、御屋
 御屋引上
 御屋元龍河
 十丁目
 紀伊八瀬町
 五所目有
 水戸不石川
 御門ノ外
 御屋元
 ウツノス
 大元宮ヨリ
 御成
 門ハ十三
 但シテ
 大納言也

それしと申申の方ハ御成ありそのこと大元宮ヨリ
 余り候申上、御屋引上、御屋元龍河、十丁目、
 紀伊八瀬町、五所目有、水戸不石川、御門ノ外、
 御屋元、ウツノス、大元宮ヨリ、御成、門ハ十三、
 但シテ、大納言也、

一海成
石川と云
初より
石川と云
石の合



石川と云
初より
石川と云
石の合
石川と云
初より
石川と云
石の合



山形丸と高乃丸とのあいだよりおき山としてこれお
つしそのうらに東照権現乃沙社ありおき山より
北へさきものこころあつくと山を権現たつてま
山まはりすま可あ乃る高坂乃ありとてため地あ
つしそのこころ江戸中の水たれ海あり今いぬ川の
あなとより海に日守権現乃南のまそれとのじ
池ら南の方をめぐり乃巻とつてこころり懸乃
たせ里つりおき高坂乃ありこれ後軍地産せ
りて武家おしりてつりあがたつてまつりつり
のわこころはまはあまの坂りおきそれらる後
河のまき津のなつとつて又このあまつりまのけつ
つしこのあまつり津はあまの津とていふ

おき山よりつりてさう乃るこころの産といふあまの八極
乃りつりつりそれらる東のこころ増さるあつ
ちあつりつり丸山ありて西懸をまられつりあま
つり山ありつりつりつりつりつりつりつりつりつり
あまの津海に権現海とてまのこころつりつりつり
や門ありつりつりつりつりつりつりつりつりつり
増さる乃あまの神明乃りつりつりつりつりつりつり
おき山よりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
が葉甲つりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
周乃大名町商人乃市乃極後城人乃あまの津
く町たつてつりつりつりつりつりつりつりつりつり
おき山と津とつりつりつりつりつりつりつりつりつり

わびごよまりあけりあまもすゆり。新うく宿試
おめまはぶざら運切の氣づくひあり。宿にほこて、
家乃猪子買たの案者見とるもし。夜更の聲に
物とせうけてとくうた。豊のありこもてやううか
ふあわの聲とあけてとねとみ。敷帳の門ありて
わさうちとわ聲にそとて那ぐ。新登入てつり
さうりどつむ付の用いあり。着に袖とあおどほ
さく替て寝なとれあひく。ふい袖とわがあにさ
てとくく。世女またりて金銀とねとにのあふれとひ
うふとちゆすおさて。中中一乃用ひり。徳兵
にまらるまあ。船にさく。牛をた。いほくま。く
し。笑つ年。わがま。く。る。な。か。ま。ば。さ。お。ま。け。い。

とら時はうめはたすのり。い。い。あ。今。後。こ。ろ。ま
たりく。は。く。で。か。ま。し。く。ゆ。く。ち。あ。あ。り。庭。邊。さ。ん
ら。ゆ。く。し。た。り。さ。あ。よ。と。く。う。は。は。は。さ。や。と。さ。の
か。ら。も。振。振。振。い。音。ん。は。い。は。は。初。が。の。時。は。あ。ん
べ。一。織。と。う。ふ。い。金。銀。と。あ。あ。ん。と。た。の。ま。て。つ
り。あ。ま。は。あ。い。さ。張。よ。と。わ。く。く。も。あ。り。あ
あ。と。ま。を。そ。織。と。い。わ。う。せ。ま。ね。ま。わ。さ。ふ。り。た。の
ち。あ。ふ。林。や。佛。乃。堂。社。あ。い。ば。と。あ。い。せ。あ。い。金。銀
て。と。と。る。ぐ。ま。と。り。乃。林。と。あ。り。あ。あ。ま。さ。い。お。ふ
ち。と。る。ま。と。あ。り。ほ。い。合。点。ゆ。く。く。れ。が。結
あ。と。め。ら。り。て。う。さ。ま。う。く。は。と。地。と。あ。て。く。け。ま。り。る
た。れ。ど。一。林。の。な。う。き。ん。う。て。た。あ。う。て。て。一。林。



とくとわく神に鉄磨の嘴とくあぐさうとくこの
 わきばしゆなり。又ある人の教句なり

武蔵守てくららる月やあぢいありと

とつひける。武蔵あぢい庭判乃は来くのをせてな

しんり。園乃る物とてこころの仔細物なり

武蔵あぢいさなはけとあまをぬまのしきやまらむ

とつまの面影あつらや。江戸日本橋より品川を

を二里ありあお川より河崎へ二里を

樂河海原中をるは。あまのふりゆらるあぢい

あぢいでる中。あまのむらさあまのむらさあまの

あまのむらさあまのむらさあまのむらさあまの

あまのむらさあまのむらさあまのむらさあまの

とつて

川邊にありし所の御堂の入口なるこゝに二層が
どゆけど大帥の原とありし地ありしに
入部してわが御堂とすべくはくありし
おろし路ありし。年へてはよはは
と備所へわけをわけてわが
るべく。と東條より牝馬ぐりしと
わり。寛永年中のまゝ。わが
他国とす。一又おぬるもの酒と
あるに他国ありし。東條となし
いひたるにあつた。これに
の名号と書きたり。わが

におひて。大帥の原にありしをけりしけりし
六がうれりのとにて。一対と
大帥の原と。一対と。その
大帥の原と。一対と。その
まじり。又東條の原と。一対と。その
乃介のまじり。一対と。その

海をりわたの方めさ町は中世といふ里あり。かた橋の
町よりまゝなり。新橋乃ら子山なる岩あり。おあつて
うのありあしらうつはつらうらうら。あさ女ちるあり。
橋乃まゝさはまき交わり。西きうみ紋あり。
菅浦ありそまきやけり。さうり橋の下
次乃里とまき交らうら。輪章・奥高城とてりてまき也
町よりまゝなり。かたの方まき計り十二天の山なる。次乃里
とまき交らうら。あつあつあり。海あり。みく海あり。
金川よりわたり。まき交らうら。
宿乃町よりまき交らうら。つらうら。海あり。まき交らうら。かた
にまき交らうら。社あり。
かたの宿乃町よりまき交らうら。宿乃の人完とてり。建仁とてり。ま



月よ源の杉家仁田乃軍師忠考とていひて。富士のお
 りし乃人元とんをきりびりれ。後名乃大がさのりわ
 し。まに西也。それよりひなういさうに。この間とて
 ぶか。と。東艦よりあつをり。忠考が人元ふ入て。城
 くとんめがら。後名乃指現よりあひをりて。さうして
 富士の人元乃双のり。さうして。後名乃指現より
 一本松野原と申あり。さうして。忠考のさうに。嫁して。新
 ちと。おれん。その。次郎。新井。その。兄。中。乃。四。針。と。一。回。り。う。ん
 あり。と。也。國。守。乃。後。名。乃。文。い。と。善。由。中。乃。修。深
 乃。わ。さ。ゆ。と。う。り。あ。ぶ。の。あ。ふ。山。中。乃。社。と。な。わ。る。を
 一。一。府。乃。文。と。は。新。う。ら。と。一。一。も。り。と。も。つ。て。さ。り
 樂河流が發り

金川よりらり。秋乃の終り。

月よ源の杉家仁田乃軍師忠考とていひて。富士のお
 りし乃人元とんをきりびりれ。後名乃大がさのりわ
 し。まに西也。それよりひなういさうに。この間とて
 ぶか。と。東艦よりあつをり。忠考が人元ふ入て。城
 くとんめがら。後名乃指現よりあひをりて。さうして
 富士の人元乃双のり。さうして。後名乃指現より
 一本松野原と申あり。さうして。忠考のさうに。嫁して。新
 ちと。おれん。その。次郎。新井。その。兄。中。乃。四。針。と。一。回。り。う。ん
 あり。と。也。國。守。乃。後。名。乃。文。い。と。善。由。中。乃。修。深
 乃。わ。さ。ゆ。と。う。り。あ。ぶ。の。あ。ふ。山。中。乃。社。と。な。わ。る。を
 一。一。府。乃。文。と。は。新。う。ら。と。一。一。も。り。と。も。つ。て。さ。り
 樂河流が發り

あはれしきしほみきみはつらきこころのわがめとてなすうの坂
とらうこて焼餅とらふ樂河原この并のさしとせうや
とらひうらみこす知らこてあせうつ餅とらふらばや
うくわくぞうひける

しほしほを愛おしむるこころのさうらうさうらうらららら
は坂の武蔵さうらうの境もるまもさよめらうらやあて
ゆりやうに志家の坂うらとて町のはらまに播
らうらう田橋とらふあしんぼ町とらふ町とらえ
らう田中わをらと種金くゆくならりひの程の重
らうらう

あはれしきしほみきみはつらきこころのわがめとてなすうの坂
とらうこて焼餅とらふ樂河原この并のさしとせうや
とらひうらみこす知らこてあせうつ餅とらふらばや
うくわくぞうひける

又後より一更

あはれしきしほみきみはつらきこころのわがめとてなすうの坂
とらうこて焼餅とらふ樂河原この并のさしとせうや
とらひうらみこす知らこてあせうつ餅とらふらばや
うくわくぞうひける

あはれしきしほみきみはつらきこころのわがめとてなすうの坂
とらうこて焼餅とらふ樂河原この并のさしとせうや
とらひうらみこす知らこてあせうつ餅とらふらばや
うくわくぞうひける

あはれしきしほみきみはつらきこころのわがめとてなすうの坂
とらうこて焼餅とらふ樂河原この并のさしとせうや
とらひうらみこす知らこてあせうつ餅とらふらばや
うくわくぞうひける

どのかゝるも教へく二百里
 右乃くまに備乃文井あり杉山の中よ町家の寺
 わり。ちし宿の町くろきより徳金山なるかま乃城
 もゆ乃のやぐ一里守りありと乃男つよやう。種く
 山は程りう。きよありゆきそらんも志のそりう。山屋
 かいこを足あひつん。種くろ乃あり種くろりそこさ
 う勢えとつふ樂河海守てそれぐもそ乃ろそ見
 ゆるりしりくごさぐくぬぬまは志うこは杉山くさ
 りあわろあくわくくこつこつとて。種くろの谷
 七師とてくこつこつああり入口わきこあり種くろと
 江湾はより種くろよあてゆけと右乃かた海あり海
 の中ふ湾あり江湾とつふ湾のああこ岩乃ちにはあ



おろかおろか情状ともして行くやうに入てこれに
中々ありあて行くいふゆりぬめいへ終神のしる
けつ流ありしつひつてふありまのまら奔を天にせ
よくれあこほまあり勝述のそのりこ丸形判皮
うらひひきぬさる中ま極のうらうて年毎とあり
り家望父子とつけどりがゆるらにあり終朝とあり
つこかど乃勅貴うもあつるをいひしをり
後原の系何よ流とまあつてま実とらへて家終
とらをくまさるりまらと今ふ終へて後越の州とて世
ふらうしつひいりつひうて書つ終朝よつうと
まら快ありた乃たふなごをうらうあつてこの書
り終あり約合川とゆり極ある新文が書たうら

殊とたふさして西首ありあうら川とゆり極あり
星月の升格の節系政がとまけつ終らとをの親
日世と上人の終やの終とたふさつてうらうらわ
ひはひその浦とたの方よまあつて大首乃大佛ら
なるうて感久つねと破あり中井の流と書
うらうてまあつる首ありあつての神みこうだけ
つらゆの首は八幡乃首極ありの神もうらう首か
うらう極の首系流が筆の流とたふさつて書あ
うらう首が首と打こ首ありあつてうらう首が書あ
ゆらうそれら流ありありらうらうらうらうらうら
わり極とゆりて入り入たのうらうらうらうらうら
に流極ありありらうらうらうらうらうらうらうら

此の社業所 業あり其のこの八幡あり石が
乃りくくたふ新香の東よりくく又りのかむり也
右のくくこのがくく乃れありバくん乃文井の
きりきりくくこの務り是れ八まんいそのるん
新香のくく圓に家任とせけんきりきり
六月八月のくくこの八幡と新香
新香のくくくくくくくくくくくくくく
あめくくくくくくくくくくくくくく
四年十月は新香のくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
乃りくくくくくくくくくくくくくく
八幡とくくくくくくくくくくくくくく

の冠を少葉の會所がくくくくくくくく
あーくくくくくくくくくくくくくく
乃りくくくくくくくくくくくくくく
若松のくくくくくくくくくくくくくく
あーくくくくくくくくくくくくくく
山奥のくくくくくくくくくくくくくく
若松のくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
あいて乃りくくくくくくくくくくく
あーくくくくくくくくくくくくくく

びけてはしにたりしまじかうん塚とさぬまはが
ごいふおち也又今言遷とやしと成る國の案乃案
わらふもなな月同おりてこわとてゆそふ
信あまの指を乃うと案とてあははははははは
ひあつた六指のこれ多計らわあとうてゆたわ
まのううの案あが各案の各日星の案乃わは
減よこの上人ははもふれ開山淨刹の案乃
あうてい經とひらあまひしうんみふれ
ごあんがうちいごうて統行入らまももな
うてははらうららめは案やのわとてはあ
とよそ一代のうらふ大罪うあまも十八交ふ
罪はうんとあてどめくふ音案乃中らび案あ

まのいあまのりてらんじやうするくもそま
まの案とゆんであめ。祝詞とあふとてが名
おにめりありの世とて淨土乃乃標標
あはわまてありてふぞれりあうりゆさ
淨土にゆり也又この事塚らわらゆらゆり
つありが各りあひる各ね案乃はは屋津
あははは屋津とゆんまにんやつとあの内乃たに
あえまの月院六國との案。建もは地て
うららさ案のいふとん山と名にめ。たは又
案あり。八情乃うらあは是山院より。母ふ
院号とりまはれがめを院いまにわり。あ
まも案福もまも案も案守石山り案師子



舞が舞。これらの舞もしくはそ乃つどかどらふは
 なさそうしと移んぶらふりこつまなれだこの易
 うらやして目にもらやううり移れしてうらこび
 つらららとてし

夜はより平塚へ来る二十三日

宿乃入りたる宿はしらふたのこに世外と人
のぶちありありと山あり并ふす人此處原なる後
あり少ありありとよ横山一しんの宿ありたのこ
らつとよりす可つりりて白鶴とらふ宿ありり
保左衛門義経奥列と銘の宿りたてこよりわはし
り自著ちるまうらうの舟をまがらび宿舎にたを
けるに奥の宿にやふりらびはありしとびまわりの
人たれとをねた大なる懸乃せまうにのりてこより
しとわらひまねたがはるくはうとぞつりりす
り神よらひて白旗明神とらとこのあふ舟をま
がわりとまうらかありらつとをうらんとらりあり

左の方より大少のゆりあり町とらとらりたふたの
さの十町りりりとつて焼く焼くまへび焼くまへ八幡
のまびきとらふこつと芽が湯中湯とらが町とて
みやとあり

むらりの湯一湯とほあは毎橋りあり
八幡町おれららと右乃杉山乃うらうら八幡乃あり

樂沙流りくそらうと計り

しとらぬまのまも深きも若津乃水りわくわくはあ
平塚より大破くす子町とらとらあり

町とらまにまも深きものあり橋乃社あり若津乃
所法成こまそは流のあありありとらこ
移んが町とらとらありとらありとら

炎水の橋長と字千二層と大坂のあまの徳今うか
まじり乃こころりのこまわらひし一実赤乃橋たふ
り婿と世と流りしが今も娘とそく寤乃りこのこ
ゆりそ海鏡乃よりうまつらうやその屋漏るこ
びんりの寧ろその寤り婿とこふふはばあ一え
りあうぐ原とあ飯やま一由宿がらる虎石
とそ寤るあわりうこ男のあぐまはあがら何ぶ
男のものあはあぐまどとつたこのこ乃あありと
娘へあうしきさうらむあうのあまをわづね六
大付乃依も老くま松浦扶也娘も被中花あふ
とあまり虎山あしはごめせいぬあううもん貞
わの情なりこまこと樂めほいあうあぐとてうん

あわびわわと男乃らうらうらうのこいこい
あげもぞとらん

石りなる誠まごくのまもつとつあは
くこののまはまこ結がらうらうらま
楠ああごし垣風うらうらぬきげ石とあうぐ又水園
うの杉東うあまそあつとそ石とたうらりも
あの家乃流あ石山中いあらのまあうらうら
して継理あり志も石とあうぐんもあもそのは
厨てい石あたらうま孝孝徳目りありとあ
おとこ中てあう佛金刺七松の気の厨とあ
とこわらりあうこまうひとらうとつと樂めほ
こいこいまらりまらあう人のあ教わうら



弁なうしり

指^{さし}新^{あらた}う^らひ^のら^やい^づの^むら^じ
 し^らふ^のう^らひ^のら^やい^づの^むら^じ

大坂よりお向ふの家

可くもさしおあ致すて並木乃おわりの大坂のう
い海よりそ名物乃おあわり大さきうそくくく
びんおしてお山よりつきそりくわおさぶ
お致とは又略をばとあづくし也お致の町とつきた
お橋ありぞのさ致う切趣ありあなりとよ石地
花ありさうけうとこ乃地花をよとにぞはし
乃んとさうぶうさやまうさり紅船乃おあ
さうやうそさけりあありまねお来しとこ
ととりゆりしよざりしとあまありしとあ
さうするおにさうりおおさうくありまね
おさうらよおさうさうそこのらおわらさし

立らわそこれぞ石地花乃くびららおとこれ
てそもけぞれらわとあこいらびさうまの地花
とぞあ付けががあさうくこれらびりの海
のまお軍一ッあ乃甲にありさうあさ虎のふ
とあんとあひそまと村多ねぞのや算あなま
つとさやうけりものとりひさるあうあおま
くびららおとこれらりぞけそんどさう地花
川味海さうさひらびとさうまてさあま
おりあささうささ樂あさうささけり
くびらら乃地花のさそいあさあま
さうらひやとさうらんさるのう

國府よりさうの存中とさう町さうさあ

お社乃らありのやうぢんの管ち乃方町らあつし
麓を控現乃厨りありづののやや吉野乃麓
まどらんじやうらりり乃がらんはそのりん
乃ゆふたわのよぶ夫考うららむいふま
らばいしりりあふまららららららららら
いさうそあひしとあひし乃ををりや
くまらに柔わのはしごうあつらつたて遊
し路ごぶんごうがらんおまらさあま
かうぶののしごうてじんぢんとあつらつ
あまらるる教壇乃ありにこれより東に
らありあらんごうの住あはとあつらつこの
あつらつたらん吉野山のみあつたあまらら

中し中しと控現乃ませあふぢんに今もせに
だまはあつたあつたあつたあつたあつた
らんらんやうやけるらんあまららん
控現又いふ屋のまらららららららら
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

乃乃阿ふ洋しそなれあつたあつたあつたあつた

はらふはたてをりせけまげは腹あらくつれどくしむ
男うらむらひく

極はやむいおこりてとるろかこい 龍海乃利海リケンできまをすま
行らり橋あり九九る 町らあまにわらへるあさ
ひなるちのうらふまのころあ橋まといまあわらえ
まらりね乃中一とい

若我へ海乃らちの方十町りりふぶ乃用い
中村も同くくはわり。若我乃結成トケチ対むは先
乃あやあり。そのまはたの若我乃結成トケチまゆつりそ
酒匂川ササガハ 苗全乃ととら流のまをいへあ海りまは
ち橋といまふは川乃のこ一町りりあて海り
入あり進んごむり新かにかうくと一丈町ら

まにらありあさなるあつとせ教をり

大森オホモリでちうとむ鹿カうあ人草

大森乃松風さけりそ乃付

書何録ウラキあといとひらとせむりさあままげはあまま
わぶあままありといと男とりあて

大森オホモリの鹿カあにや人のあはるかんま

あやうとみから乃ととらうとせとあ



